

日韓両国の電話会話における談話管理に ついての一考察

—行為要求用件の前後部を中心として—

元 裕 璟*

(e-mail: itsumo00@korea.ac.kr)

目 次

- | | |
|------------|----------------------|
| 1. はじめに | 4. 結果及び考察 |
| 2. 先行研究 | 4.1 共同行為要求用件における談話管理 |
| 3. 研究方法 | 4.2 単独行為要求用件における談話管理 |
| 3.1 分析資料 | 5. おわりに |
| 3.2 分析の枠組み | |
-

1. はじめに

我々は日常生活において、他者に働きかけ、ある行為を勧誘したり要求したりするなどといった行為を促し、行為の実行を求める場合がしばしばある。しかし、非母語話者にとって母語話者に上手く行為を要求するためには、言語の文法能力のみならず、いかに会話に参加しながら用件を切り出し、話題を終わらせるかという談話を管理する能力も必要である。とくに、コミュニケーション媒体の一つである電話は、相手の表情や身ぶりなどの非言語行動に頼らず会話を進めなければならないため、非母語話者が母語話者に電話を通じて用件を伝える際、困難を感じることは当然であろう。

そこで、本稿では行為を有効に要求するため、行為要求用件によってその前後部¹⁾においていかなる談話管理を行うか、電話会話を分析資料として、日本語母語話者同士と韓

* 高麗大学校 中日語文学科 日本語学専攻 博士課程修了

1) 主要用件の含まれる主要部の「前置き部」と「後置き部」を合わせて「前後部」と称する。その具体的な内容は本文で詳述する。

国語母語話者同士の談話構造を分析し、その構成要素と使用様相を比較することを目的とする。さらに、その結果に基づき、韓国人日本語学習者が日本語母語話者に行為要求用件を伝える際、効果的な談話管理を行う手立てとしたい。

2. 先行研究

電話における談話管理に関する研究は、日本語母語話者と非母語話者の電話会話を対照させ、その会話構造と談話標識を明らかにしたものがいくつか見られる。

岡本・吉野(1997)は、日本語母語話者同士および非母語話者と母語話者の電話会話を取り上げ、開始部と終結部における談話管理を比較分析している。日本語母語話者の談話管理の特徴として、開始部において「あ」は受け手がかけ手を認定する談話標識として、終結部においては「じゃ」が終結への意向を暗示し、移行場所で段階的に終結へと導く標識として機能していることを明らかにした。反面、非母語話者の場合、「あ」「じゃ」などの機能を十分に理解していなかったり、適切な運用が出来なかったりし、会話がスムーズに進んでいるように見えても全体構造におけるメタメッセージ²⁾の理解や運用においては問題が残り、談話管理能力が不足していることを指摘している。

そのうち、日韓の友人同士の電話会話の開始部を分析した林美善(2003)は、開始部から主要部の話題へ移行する際の特徴として、韓国人の場合は開始部に「第一の質問—答え」³⁾が出現する割合が高く、さらにそのターンのやりとりが長くなると、話題の開始が遅れる傾向が見られると報告している。また、具恩美(2006)は、日本人母語話者は終結部への移行を意図する談話標識として「じゃ」「うん」などを使い、終結部では「感謝とお詫び」の表現を用い、二人の関係を損ねないようにする談話管理を行っていることを明らかにした。

分析対象が電話会話ではないものの、話者が用件をもって聞き手に話しかけた研究の先駆けとしては、柏崎(1993)があげられる。彼は、日本語母語話者と日本語学習者の談話資料を題材に、話しかけから依頼・要求に至る談話の流れを比較し、学習者の前置き表現や用件内容表現が違和感やぎこちなさ、唐突さを感じさせるケースについて考察している。その結果、両者ともほぼ何らかの前置き表現を使い、負担や内容を暗示したりポーズを置いたりして、相手を話の場に引き込む働きかけを行ってから用件内容に進んでいた。用件内容部分では、協力を依頼する典型的表現だけでなくむしろ話し手の状況型や主題型が多く、発話末は言い切らず、聞き手に用件内容を察してもらおう特徴が見られたと分析している。

2) メタメッセージとは、発話が伝える文字どおりの内容以上のメッセージのことである。

3) Hopper(1992)の提案する開始部の四つの構成要素のなかで一つであり、呼び出し—答え、自己提示—認定、あいさつ—あいさつの交換後に現れる短い質問と答えのやりとりを指す("How are you?"—"Fine").

また、主要用件の前後部に触れた分析としては、韓日インターネット上の質問に対して開始部と終了部の研究が取り上げられる。한미경・장창임(2011)によれば、両国とも不特定者に対する質問の内容には対人配慮のための前置きも後置きもあまり用いられず、質問者の要求表明で終わる場合が多く現れたと述べている。しかし、相手を意識する場合は、韓国人ユーザーはあいさつや自己紹介のような対人配慮に重点をおくが、日本人ユーザーは質問について相手の行為要求表明に充実した談話様相がみられたと指摘している。

以上の研究は、日本語を用いた電話会話において次の進み方へのシグナルである談話標識や言語表現は解明しているものの、主要用件を伝えるための全体の構造からみた談話管理を扱った研究は、まだ不十分であると言えよう。

3. 研究方法

3.1. 分析資料

分析資料は、日本語母語話者同士と韓国語母語話者同士の電話上の会話55件を録音・文字化⁴⁾し、その中で主要用件が明確に現れた各母語話者ごとに10件ずつ、計20件の資料⁵⁾を分析対象とする。1件の会話は25発話から108発話までの構成となっており、全体発話数はおよそ1,112発話、61分18秒である。電話会話の内容は場面設定の無い自然談話であり、「かけ手」が特定の用件があって「受け手」に電話をした「かけ手」と「受け手」の音声のみのやりとりで成されているものである。以下、被験者の属性(性別・年齢)と対人関係を〈表1〉に提示する。

4) 文字化の方法は基本的に曹英南(2011)によるが、筆者が一部加筆している。

① 発話の単位：話者が交替するたびに改行する。

② 発話者表記：A-電話をかけた人、B-電話を受けた人。

③ 同時発話の場合、以下のように記入。

例) A発話：そんなこと[ないし]。

B発話：★乗れよ。

A発話の「[」の「ないし」とBの「★」の「乗れよ」が重複していることを意味する。

④ 疑問文(上昇調)：「？」をいれる。

⑤ 言い淀み：「…」をいれる。

⑥ 笑い：[笑いながら][二人で笑い][ははははは]で記す。

⑦ 聞き取り不能：「####」をいれる。

⑧ プライバシー保護：名前や学校など固有名詞は明記しない。

⑨ ポーズ：[少し間]または[沈黙 2秒]で示す。

5) 分析資料は、高麗大学校日本語教育研究室のKUJEコーパスの電話会話資料の一部に、筆者が(1次)2013年7月から11月まで、(2次)2014年5月から8月まで集めた電話会話資料を加えたものである。

〈表1〉 被験者の属性と対人関係

	日本語母語話者			韓国語母語話者			対人関係
	件名	A 性別/年齢	B 性別/年齢	件名	A 性別/年齢	B 性別/年齢	
共同 行為要求 用件	JJ1	女 / 30	女 / 34	KK1	女 / 26	女 / 26	親しい関係
	JJ2	女 / 28	女 / 34	KK2	男 / 25	男 / 26	親しい関係
	JJ3	男 / 44	男 / 33	KK3	女 / 28	女 / 27	親しい関係
	JJ4	女 / 28	女 / 28	KK4	女 / 27	女 / 27	親しい関係
	JJ5	女 / 30	女 / 32	KK5	女 / 26	女 / 26	親しい関係
単独 行為要求 用件	JJ6	男 / 43	男 / 32	KK6	女 / 30	男 / 34	親しい関係
	JJ7	女 / 28	女 / 34	KK7	男 / 37	男 / 38	親しい関係
	JJ8	女 / 28	女 / 28	KK8	女 / 28	女 / 26	親しい関係
	JJ9	女 / 36	女 / 34	KK9	女 / 26	女 / 27	親しい関係
	JJ10	女 / 30	女 / 35	KK10	女 / 30	女 / 28	親しい関係

各母語話者のAは、用件を持って電話をかけた側、Bは電話を受けた側であり、対人関係は友人間という親しい関係に限る。

3.2. 分析の枠組み

3.2.1 行為要求用件の分析範囲

行為要求の分類を試みた先行研究は、仁田(1991)、柏崎(1993)、蒲谷・川口・坂本(1994)、姫野(1997)、高梨(2011)などがある。これらの研究は依頼、勧め、指示、許可、禁止など、互いに少しずつ行為の性格を異にするものの、受け手の行為の発動に関わるという点では共通していることから、いずれも行為要求の下位分類になると考えられる。

本稿では主要用件として行為を求める用件のみ取り上げるため、談話全体の機能から設けたザトラウスキー(1993)の12種の「発話機能」⁶⁾のうち、日常生活で頻繁に交わされる一部の発話機能に焦点を当て考察を行う。意思疎通機能の延長線上からみた会話の結果がいずれの会話参加者に行為、すなわち主要用件の結果が現れるのかにより、かけ手の発話意図を分けた分析基準を設けたい。

- 共同行為要求：話し合った結果、かけ手が行為に含まれる
 - 勧誘、約束を合わせるなど
- 単独行為要求：話し合った結果、かけ手が行為に含まれず、受け手のみを動かす
 - 依頼、お願いなど

以下、かけ手が受け手とともに行為に参加する共同行為要求の会話例を提示する。

6) 12種の「発話機能」は、注目要求、談話表示、情報提供、意思表示、同意要求、情報要求、共同行為要求、単独行為要求、言い直し要求、言い直し、関係作り・儀礼、注目表示である。

会話例1)待ち合わせの場所と時間を確認する状況

(電話会話資料：JJ親1-4)

3A	うんうん、ねえ、B、金曜日はね、6時半に会うんだよ、私たち。	【切り出し】	主要部
4B	うん、とりあえず。…とりあえずロビーで会えればいい、B的には。		
5A	電話できひんのやろ？めっちゃ高いから。		
6B	あ、まだ…高いらしい。受けるのは、韓国はまだ調べてないけど…、タイとかだったら100円とかだから、受けるのは大丈夫だけど…。		
7A	ほおほお…、じゃいちお6時半にミョンドン…ホテルで。	【主要要件】	
8B	うんうん。		
9A	ほいでこえへんかったら、また電話す[るわ。	【再連絡】	
10B	★うんうん。…はい、お願いします。		
11A	ロッテホテルのロ[ビーで…		
12B	★ロッテホテルのロビーで大丈夫よね？	【再確認】	
13A	うん。		

会話例1)は、AがBとの待ち合わせの場所と時間を確かめる主要要件をもち、まだ訪韓したことの無いBを懸念して、かけ手のAが主要部においてBの理解を何度も確認している状況である。AはBと約束日に約束の場所で一緒に会う行為を求めているので、この会話の結果、会話参加者とも共同行為を行うことになる。

次に、かけ手は話し合った結果に含まれず、受け手のみ動かす単独行為要求の会話例を提示する。

会話例2)AがBに資料送付を要求する状況

(電話会話資料：KK親2-1)

10A	아니 다른 게 아니라 좀 물어볼 게 [있어서요.	【切り出し】	主要部
11B	★먼데 먼데 먼데?		
12A	아니[少し間]. 저번에 우리가 하던 그 자료 있잖아요. 그거 나도 좀 받을 수 있을까 해서요.	【主要要件】	
13B	자료? 무슨 자료지?		
14A	왜 우리 다 같이 한 자료. 그거요. [笑いながら] 난 조금 밖에 안했지 만. 이번에 논문 쓰는데 참고자료로 쓰면 좋을 것 같아요.	【補足】	
15B	아. 그 자료? 그래. 그래. 그거 지금 필요하니?		
16A	네네. 지금 보내 주시면 더 좋고요.		

会話例2)をみると、12Aは13Bに資料をもらいたい願望を表しながら資料が必要な理由を述べ、早速送ってほしいと受け手のBにお願いをしている状況である。この会話の結果、BはAに資料を送付する行為を行うということから、かけ手のAは受け手のBのみ動かす単独行為を求めていると言える。

3.2.2 行為要求要件の前後部の研究範囲

電話会話の構造の研究は多く行われ(橋内 1985;岡本 1990;今石 1992;小野寺 1992;熊取谷 1992;ザトラウスキー 1992など)、開始部—主要部—終結部という全体構造や典型的に用いられる表現、特徴などが明らかにされている。

本稿では、電話会話の全体の流れに沿った談話管理を把握するため、従来の研究にて

解明された電話構造を軸とするが、開始部から主要部へ、主要部から終結部へ移行するあいだ、言い換えれば主要部の前後に用件を持ったかけ手の意図や談話管理が現れると想定し、分析の枠組み⁷⁾を設ける。但し、行為要求用件を中心としたその前後部を分ける発話機能の基準は、韓日友人間の依頼電話会話を題材に、move単位⁸⁾で発話機能を抽出した申媛善(2010)の類型—呼び出し、相手確認、相手承認、自己開示、状況確認、前置き、説明、配慮、依頼、受諾、再確認、感謝、補足、反応、質問、応答、感想、冗談、終了暗示、謝罪、あいさつ、保留、代案提示など—を用いることにする。

以下、発話機能を基に細分した各部の分析範囲を示したい。

- 開始部：呼び出しから主要用件と関係のない状況確認まで
- 前置き部：主要用件と関係ある状況確認から本題に入る前まで
- 主要部：主要用件の切り出しから話題が終わるまで(複数の話題が登場する場合もあり)
- 後置き部：主要用件と関係ある補足や感想などから終了暗示の前まで
- 終結部：終了暗示から最後のあいさつまで

以下に分析資料の電話会話の例を用い、本稿の研究構造を示す。

会話例3)AがBと会う約束をする状況

(電話会話資料：JJ親1-2)

1B	もしも	【呼び出し】	開始部
2A	もしも		
3B	はいはいはい。		
4A	久しぶりー!		
5B	うーん、久しぶり、元気?		
6A	元気ちゃうよ。		
7B	そなん、(笑い)[少し間] 大変?		
8A	めっちゃ大変		
9B	そなん[やー、		
10A	★うん、[少し間]そっちはどう?		
11B	うん、あいかわらず。		
12A	ほんま忙しすぎて、「秋を感じる会」もできてないやんな、うちら。	【前置き】	前置き部
13B	もう冬やもんな、冬を感じるのでもええけどな。(笑い)		
14A	そやな、また来週ぐらい?	【切り出し】	主要部
15B	うん、また来週。…あ、待って、来週、私、親が来るねん。30,31,1,2、親来る[ねん。		
⋮	(中間省略)	⋮	
24A	2週目が[に	【主要用件】	
25B	★うん。		
26A	そんくらい[に		
27B	★うん。		
28A	会おうか。		

7) 分析の枠組みは、元裕環(2012)の「前置き部」「主要部」「後置き部」の構造を参考とした。

8) 分析単位のmoveというのは、談話の中でかけ手が発する発話の最小の機能的単位のことである(中田 1990)。

29B	うん、わかった。		
30A	また連絡するー！	【再連絡】	き後 部置
31B	うんうん。		
32A	あーい。	【終了暗示】	終 結 部
33B	ほんじゃ、気をつけ[て。		
34A	★あーほいじゃー[ね。	【あいさつ】	
35B	★うん、うん、ありがとうね。バイ[ばい。		
36A	★はーい。		

会話例3)は、AがBに近況を聞きながら約束日について話し合っている状況である。1Aの呼び出しから11Bに継ぐ近況について質問—応答する内容は、本題の目的である約束決めの取りつけとは関係のないあいさつであるため「開始部」になる。反面、12Aと13Bは主要用件の直前に発せられ、実際の約束日である11月中旬という季節と関係ある話題を取り出し、そろそろ約束日について話そうとするAの働きかけを13Bに認知させていることから「前置き部」とみられる。それから、「主要部」で定めた約束日に対して再び連絡するという30Aの念押しを、主要用件の後付けである「後置き部」として捉えられる。その後、32Aで電話の終了暗示を行い、あいさつを経て「終結部」へ向かう構造は、「開始部—(前置き部)—主要部—(後置き部)—終結部」という従来の電話構造に基づき、「主要部」の前後に「前置き部」と「後置き部」を設けてかけ手のAが談話管理が行っていると考えられる。

4. 結果及び考察

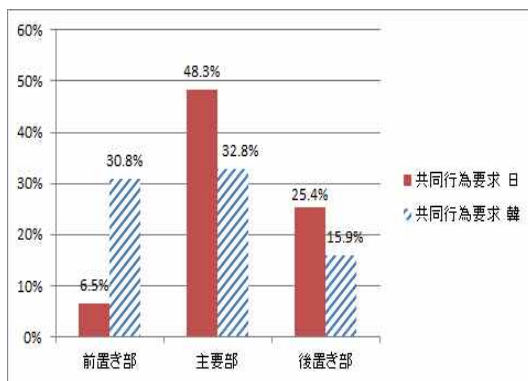
4.1 共同行為要求用件における談話管理

4.1.1 使用様相からみた談話管理

本稿の分析の枠組みにて設けた研究範囲に従い、共同行為要求による日本語母語話者同士と韓国語母語話者同士の電話構造からみた使用頻度を〈表2〉に、図式化したものを〈図1〉のように示す。

〈表2〉 共同行為要求による両国母語話者同士の使用頻度 (()内は発話数)

	共同行為要求	
	日	韓
開始部	11.1% (36)	8.5% (17)
前置き部	6.5% (21)	30.8% (62)
主要部	48.3% (156)	32.8% (66)
後置き部	25.4% (82)	15.9% (32)
終結部	8.7% (28)	11.9% (24)
合計	100% (323)	100% (201)



〈図1〉 共同行為要求による両国母語話者の使用頻度

〈図1〉をみると、電話会話上においてかけ手の主要用件が共同行為要求である場合、日本語母語話者の「前置き部」の使用頻度が6.5%に比べ、韓国語母語話者のその割合は30.8%のおよそ5倍に至る。また、主要部の使用頻度において日本語母語話者は48.3%に達することから、電話会話の全発話のうち、半分ぐらいの発話を共同行為の実行を求めるのに費やし、用件を伝える前より本題の共同行為要求に集中して発話している。なお、「後置き部」においては、韓国語母語話者の15.9%に比べ、日本語母語話者は25.4%の頻度でやや高く使用していることから、主要部の後付けを通して用件についての補足や感想を共有するなど、かけ手と受け手の共同行為を構築するための談話管理を行っていると思われる。

一方、韓国語母語話者は、「前置き部」の30.8%の使用頻度は主要部の32.8%の頻度と大きな差が無いことから、本題を切り出す前に「前置き部」において受け手の状況確認や背景説明など、相手を話し場に引き込む働きかけを積極的に行っていると言える。反面、「後置き部」の使用頻度はおよそ15.9%であり、「前置き部」の頻度より格段に下がっていて、韓国語母語話者は共同行為の実行を求める場合、会話の前半に重点をおき、談話を管理していると思われる。

4.1.2 構成要素からみた談話管理

本節では、「主要部」の用件が共同行為要求である場合の「前置き部」と「後置き部」において、日本語母語話者と韓国語母語話者それぞれの談話を成す構成要素について考察を行う。

電話会話において共同行為要求用件を伝える際、日本語母語話者と韓国語母語話者が主要部の前後部で行っている談話管理の構成要素を次のようにまとめられる。

- 日本語母語話者
 - ┆ 前置き部 - 状況確認(3件)、背景説明(1件)⁹⁾
 - ┆ 後置き部 - お互いへの配慮(2件)、補足(1件)、追加説明(1件)、

- 再確認(3件)、話題転換(1件)、近況確認(1件)
- 韓国語母語話者
 - └ 前置き部 - 状況確認(5件)
 - └ 後置き部 - お互いへの配慮(1件)、補足(3件)、感想(1件)、追加説明(1件)、再連絡(3件)、再確認(3件)

両国の母語話者とも、「前置き部」と「後置き部」で行っている発話機能は類似しているが、とりわけ日本語母語話者の後置き部にて話題転換と近況確認という発話機能が観察された。これは、既に「前置き部」で確かめた受け手の状況や近況を改めて窺い、共同行為を求めるかけ手も、求められる受け手も、共同の結果に向かうお互いへの負担を軽減させるために行う談話管理であると思われる。反面、韓国語母語話者の場合、「後置き部」において主要用件についての感想の発話機能が現れたことから、日本語母語話者の話題転換や近況確認と同様に、相手への配慮の一種として、共同行為に関する感情の共有を求め、負担を減らしたり気分を察する談話管理を行っていると言えるだろう。以下、会話例に現れる構成要素を考察する。

会話例4)野球観戦に誘う状況

(電話会話資料：JJ親1-3)

1A	もしも、B君？	【呼び出し】	開始部
2B	あ、もしも、はい。	【相手承認】	
3A	今、うち？	【状況確認】	
4B	あ、自宅です。はい、テレビ見ってます。SK対KIA、SK対KIA見ってます。		
5A	勝ったね、今日は。		
6B	はい。		
7A	そいでさー、B君…。	【前置き】	前置き部
8B	はい。		
9A	今年野球見に行った？	【状況確認】	
10B	いや、まだ行ってないです。		主要部
11A	あのさー、5月のさー、30日の日曜日なんだけどさー。	【切り出し】	
12B	あの一、あれですか。ロッテ対…。		
13A	ムナクキョンギジャン[문학경기장]。あの一、もし、もしーあれだったら一、あの一。	【用件説明】	
14B	はい。		
⋮	(以降省略)	⋮	

会話例4)は電話のかけ手のAがBを野球観戦に誘いたく、「前置き部」で野球の話題を提示しながら受け手の状況を確認している。「前置き部」に現れる状況確認は、開始部に登場した今どこにいるかを聞く状況確認とは異なり、かけ手の主要用件である野球と関連する受け手の観戦の可否を尋ねながら主要用件についての背景を自然に表している。Aは野球をいっしょに観戦するという共同行為を求めるために、行為要求用件を切り出す前に

9) 発話機能ごとに示している件数は、共同行為要求用件10件のうち、日本語母語話者同士の電話会話資料5件、韓国語母語話者同士の電話会話資料5件から現れた発話機能の出現数である。但し、全体の流れから両国の構成要素を取り上げたいため、件数についてはとくに言及しない。

「前置き部」を置いて相手の状況を確認していると考えられる。

かけ手が共同行為を要求しようとする用件を持っている場合、「前置き部」において近況や状況を確認めながら相手を察する会話例は韓国語母語話者同士の電話会話でも観察される。

会話例5)急な誘い

(電話会話資料：KK親1-2)

1A	응.언니.	【相手承認】	開始部
2B	언니 번호 바꿨어.	【状況確認 1】	
3A	아 번호 바뀌었어? 혹시...저기...휴대폰 바꿨어?		
4B	그냥 번호[만].	【状況確認 2】	
5A	★응~ [笑いながら]왜 번호를 바꿨어? 번호를 바꿀만한 사연이 있었어?	【状況確認 1】	前置き部
6B	신규로 하면 더..뭉어서 싸게..뭐..해준다네? [그래서 그냥 바꿨어.		
7A	★응~ [笑いながら]그럼 이제 언니도 멤버쉽 카드를 가지고 다니는 거야?	【状況確認 2】	前置き部
8B	[笑いながら]못 받았다.		
9A	[笑いながら]아아~ 아직도? 아아..언니에겐 참 진짜 꿈과 같다. 그 멤버쉽 카드가. 다른 사람들 어디가나 다 갖고 다니는 건데.	【切り出し】 【主要用件】	主要部
10B	그러니까 말이야. 아아...[C]짱. 어떻게(?)소.		
11A	아~아니...일하던 그...회사에 과장님이 결혼을 하셔서가지고 오늘...어오, 결혼식에 갔다가 지금 돌아가는 길인데 [笑いながら]뭔가 집에 돌아가기가 허전해서 혹시 언니[D]쪽 집에 와 있으면 가까우니까 보자구.		
12B	그래 오늘 언니가...뭐지? 약속이 있어가지구...		
13A	응. 그렇구나.	⋮	⋮
14B	아까 좀 말했었으면 약속 안 잡았었을 텐데 어떡하나 오늘은 조금 그렇다.		
⋮	(以降省略)	⋮	⋮

会話例5)はAがBに思いがけず会いたいという共同行為を求める場面であり、日本語母語話者の会話例と同様、用件を切り出す前に「前置き部」をおき、状況を確認している。

主要用件を伝えたあとの「後置き部」にて、両国母語話者の談話管理においてはやや相違点がみられる。

会話例6)野球観戦に誘う状況

(電話会話資料：JJ親1-3)

⋮	(以前省略)	⋮	主要部
51A	B君前一緒に行ったでしょ?	⋮	
52B	はい。		
53A	一応まあ、一番最初にって言われ[て].	【Bの話題転換】	
54B	★あー、あー、ありがとうございます。ちょっと...ちょっと...微妙なんですよな。		
55A	おー、了解了解。わかりました。	⋮	後置き部
56B	すいません。あれですか?ロッテ側ですか?それともSK側...		
57A	どっちだろうね?だから、あの一、そのときの空き状況によって.	⋮	⋮
58B	はい。		
⋮	(中間省略)	⋮	⋮
65A	わかりました。	⋮	⋮

66B	あー、はい。		
67A	今、どうなの？	【話題転換】	
68B	あの一、今活動してまして。で、今日とりあえず1社、あの一、行ってきて。まあ、ちょっとどうなるかわかんないんですけど。はい。		
69A	面接ね、行ってきたの？	【近況確認1】	
70B	面接、面接じゃないんですよ。何か食事したいって言われて、それで一緒に[...]		
71A	★#####じゃないの？	【近況確認2】	
72B	いやー、わかんないですね、まだ一、そればかりは、はい。		
73A	わかりました。		
74B	で、一緒に食事して、いろいろ話して、会社の状況とか、#####とかいろいろ聞いて。はい。		
75A	そうか、いま大変なんだよね。忘れてたよ。[ごめん。	【配慮1】	
76B	★いえいえー、いや、だ、大丈夫ですよ。		
77A	まあ、#####ないし。		
78B	そうですねー。		
79A	もうねー、一般席では見たくないっ[て。[笑い：フッフッフッフ]	【追加説明】	
80B	あー、Cさんがですか？		
81A	だって、あの一何か、一回さ、ファミリー席とかに慣れちゃうとほんと[本当]楽しさ。		
82B	[笑い：アッハハハハ...]		
83A	ファウルボールとか飛んで来るしね。		
84B	[笑い：ハハハハハハ...]確かにそうですね。		
85A	B君に最初に声かけてって言われたからさ。	【追加説明】	
86B	あー、ありがとうございます。		
87A	ということで、じゃあまた。まあ、[機会はいくらでもあるん[で。	【配慮2】	
88B	★はい。 ★ええ、ええ		終結部
89A	すいません。	【終了暗示】	
90B	すいません、ありがとうございます。失礼しまーす。		
91A	ほーい。		

会話例6)は、前述した会話例4)の続きであり、結局かけ手のAの誘いに電話の受け手のBが断る主要部に対して、「後置き部」が56Bから86Bまで長く続くことが分かる。56Bは主要部が終わったとたんで話題を転換してAの気持ちを察し、また67Aも話題を切り替えてBの負担を軽減するのに努めている。69Aと71Aの発話機能は近況確認であるものの、やはり前文と同様にBを中心とした話題を扱い、75AまでAの配慮が続いていると思われる。

一方、共同行為用件を持って電話会話を行った韓国語母語話者の会話例の「後置き部」においては日本語母語話者のそれと異なる様相が観察された。

会話例7)急な誘い

(電話会話資料：KK親1-2)

⋮	(以前省略)	⋮	
12B	그래 오늘 언니가... 뭐지? 약속이 있어 가지구...		主要部
13A	응, 그렇구나.		
14B	아까 좀 말했으면 약속 안 잡았었을 텐데 어떡하냐 오늘은 조금 그럴다.		
15A	어쩔 수 없지 뭐. 급하게 이야기한 건데. [笑い]난 지[급	【配慮1】	後

16B	★언제 한 번 만나서 밥이나 먹게.	【B의配慮1】	置き部
17A	음…밥은 이제 됐다구. 막이래.[笑いながら]배불러요[^^^]. 살찌겠어 이러다가. 만나는 사람.[하고 자꾸 밥만 먹어.	【配慮2】	
18B	★응. [笑いながら] 알겠어. 음…언제 한 번 만나서 이야기도 좀 하고 싶고 한다. 정말.	【B의配慮2】	
19A	응. [알	【B의配慮3】	終結部
20B	★한 번 연락줘 A야.		
21A	응…알겠어. 난…학교 복사집으로 가. [笑いながら]복사할 게 있어서.		
22B	그래…마저 복사 잘하고. 언니가 또 연락할게.		
23A	응. 알겠어.		
24B	응~.		
25A	어.		

会話例7)は、前述した会話例5)の続きであり、かけ手Aの急な誘いが14Bに断られ、15AでBの負担を軽減させる配慮を払っている。さらに、共同行為要求を行うことができない原因を提供した受け手のBは、かけ手Aに16B、18Bと20Bのように積極的な配慮を行い、Aの気持をほぐしていることが分かる。

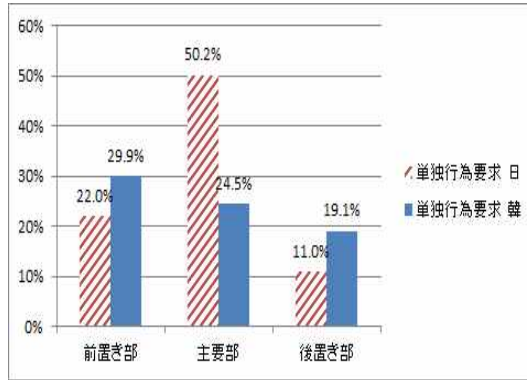
4.2 単独行為要求要件における談話管理

4.2.1 使用様相からみた談話管理

本稿の分析の枠組みにて設けた研究範囲に従い、単独行為要求による日本語母語話者同士と韓国語母語話者同士の電話構造からみた各部の使用頻度を〈表3〉に、図式化したものを〈図2〉のように示す。

〈表3〉 単独行為要求による両国母語話者の使用頻度 (()内は発話数)

	単独行為要求	
	日	韓
開始部	8.1% (22)	16.6% (40)
前置き部	22.0% (60)	29.9% (72)
主要部	50.2% (137)	24.5% (59)
後置き部	11.0% (30)	19.1% (46)
終結部	8.8% (24)	10.0% (24)
合計	100% (273)	100% (241)



〈図2〉 単独行為要求による両国母語話者の各部の使用頻度

〈図2〉をみると、電話会話上においてかけ手の主要用件が単独行為用件である場合、日本語母語話者の「後置き部」の使用頻度が11.0%に比べ、「前置き部」の割合は22.0%の2倍である。また、主要部の使用頻度が50.2%で電話会話の全発話のうち、半分以上の発話を単独行為を求めるのに焦点をあてていることから、かけ手は、行為に含まれず依頼やお願いなど受け手のみ行動させる単独行為を求めるため、用件を切り出す前から本題まで長い談話管理を行っていると考えられる。なお、日本語母語話者は会話の前半に主な談話管理を行い、主要用件が終了したあと相手の気持ちを察する「後置き部」に関しては貧弱な談話管理を行っていることが分かる。

一方、韓国語母語話者は「前置き部」から「後置き部」までその使用頻度が徐々に減ってはいるものの、際立った箇所が無いことから電話会話の全般的な流れを等しく管理しながら単独行為を求めていると言えよう。

4.2.2 構成要素からみた談話管理

本節では、「主要部」の用件が単独行為要求である場合の「前置き部」と「後置き部」において、日本語母語話者と韓国語母語話者それぞれの談話を成す構成要素について考察を行う。

まず、電話会話において単独行為要求用件を伝える際、日本語母語話者と韓国語母語話者が主要部の前後部で行っている談話管理の構成要素を次のようにまとめられる。

- 日本語母語話者
 - └ 前置き部 - 状況確認(3件)、背景説明(2件)¹⁰⁾
 - └ 後置き部 - お互いへの配慮(1件)、補足(1件)、追加説明(1件)、再連絡(2件)、再確認(1件)

10) 発話機能ごとに示している件数は、単独行為要求用件10件のうち、日本語母語話者同士の電話会話資料5件、韓国語母語話者同士の電話会話資料5件から現れた発話機能の出現数である。但し、全体の流れから両国の構成要素を取り上げたいため、件数についてはとくに言及しない。

- 韓国語母語話者「前置き部」 - 状況確認(4件)、背景説明(1件)
 - ↳ 後置き部 - お互いへの配慮(1件)、補足(1件)、追加説明(1件)、再連絡(1件)、再確認(2件)、補償(2件)

今回の分析資料のうち、単独行為を要求する場面における日本語母語話者同士の会話の場合、「後置き部」にて補償のような発話機能は1件も現れていないのに対し、韓国語母語話者同士の場合はしばしば観察された。このことから、韓国語母語話者は依頼やお願いなど、相手のみを動かす行為を要求する場合、予め行為に対する補償を表し、より有効な結果はむしろ相手の気持ちを慰める談話管理を行っていると考えられる。

単独行為を要求する際、両国母語話者同士も主要用件が共同行為要求である場合の「前置き部」と同様な構成要素が観察された。以下、かけ手のAが受け手のBにお願いする会話例を提示する。

会話例8)AがBに第三者に頼まれた物を渡す時間や場所をお願いする状況

(電話会話資料：JJ親2-10)

1A	もしも[し？	【呼び出し】	開始部
2B	★あ、先生？	【相手確認】	
3A	もしも[し…。		
4B	★はいはいはいはい。		
5A	今、いいですか？お電[話…。	【状況確認】	
6B	★うん、大丈夫ですよ。		
7A	先生、明日って、何時ぐらいに行かれますか？	【状況確認】	前置き部
8B	えっと、9時50分ぐらい。		
9A	9時50分？…わたし[…		
10B	★はいはい。		
11A	T先[生…	【前置き】	
12B	★9時50分に、えっと…、あ…どうしてですか？		
13A	[笑いながら]ふふふ…		
14B	[はは]		
15A	[笑いながら]T先生の…、あの…、なんか、メッセージを書いたんですよ。	【背景説明】	
16B	あぁー、はいはいはいはい。		
17A	B先生に渡してってS先生に言われてえ…。	【背景説明】	
18B	あー、そうですね[ね、だから、いやー、でもべつに差し込むだけだ[からあ…		
19A	★うん。	★あ、	
20B	気に…、大丈夫ですよ。		
21A	じゃ、9時50分に？ [少し間] 店ですか？	【切り出し】	主要部
22B	あ、えっと、テ、テストメイト…、そしたら1階に来てもらえますか？		
⋮	(以降省略)	⋮	

かけ手のAはBにお願いをするのに先立ち、7Aにて受け手のBの状況を確認している。

また、15Aと17AにおいてBにやってもらいたい単独行為についての背景を説明していることから、共同行為要求用件の「前置き部」における主な発話機能と類似している。つまり、電話会話上において、親しい間柄で勧誘や約束決めのような共同行為要求も、お願いや依頼のような単独行為要求も、「前置き部」を設けて相手の状況を確認し相手話し場に引き込んだうえ、主要用件を披露していくと言えよう。

会話例9)AがBに品物を買っておくことをお願いする状況 (電話会話資料：JJ親2-3)

⋮	(以前省略)	⋮	
6A	聞こえる? ちょっとさ。	【前置き】	前置き部
7B	うん。		
8A	お願いがあるんだけど、いい? 聞いてもらって。	【状況確認】	
9B	うん。いいよ。どうしたの?		
10A	あのね、ほら、この前Cにもらった顔のバックあるじゃん、Cにやったやつ。	【背景説明】	前置き部
11B	顔のバック?		
⋮	(中間省略)	⋮	
18A	あれをさ、今度私が日本に帰ったときに	【切出し】	
19B	うん。		主要部
20A	あの準備してほしいんだけど	【主要用件】	
21B	うん、いいよ。		
⋮	(中間省略)	⋮	
58A	本当? え、じゃまた、帰る前に、[あの、Bちゃんに相談するわ。	【再連絡】	後置き部
59B	★うんうん、あ、でもね、それね、半額で買えるのね、月が決まっててね、次11月か12月なんだよね。	【補足】	
60A	ああ、大丈夫大丈夫。	【配慮】	
61B	大丈夫? その時に、あ、じゃ、あの帰るときが分かったらまた連絡しよう[か、何バック買おうか。		
62A	★うんうんうん。 うんうんうん。		
63B	聞いとけば、最大6バックまでみたいね。	【追加説明】	
64A	うんうん。		
65B	なんか、6バックまでなら買える。		
66A	あ、オッケー。また、じゃ[連絡する。	【終了暗示】	終結部
67B	★うん。 うんうん。		
⋮	(以降省略)	⋮	

会話例9)は、Aが以前Bからもらった顔のバックが気に入ったのでBに同じバックを購入してもらいたいと、お願いをする単独行為要求の場面である。「前置き部」において、Bの状況を確認したり主要用件に関する背景を説明するなどの発話機能は、共同行為要求用件と同じく構成されている。しかし、受け手のみ動かすかけ手の単独行為要求に対して58Aがまた連絡することで終結部を迎えようとしたら、59BはAのお願いしたバックについて追加で説明したり補足情報を提供するなど、受け手のほうから「後置き部」を設け、かけ手の行為要求に積極的に応じている。通常、かけ手が単独行為を求め受け手にその要求が許された場合、「後置き部」においてかけ手よりの補足説明や感謝など、受け手の気持ちを

ほぐす談話管理が行われると想定できるものの、本稿の分析資料は友人関係に設定したため、特定した談話管理ではなく会話参加者とも主要用件が有効な結果になるように努め合っていると考えられる。

一方、韓国語母語話者の単独行為を求める場合、日本語母語話者同士の電話会話には現れていない発話機能が見られる。

会話例10)AがBに資料送付を要求する状況

(電話会話資料：KK親2-1)

⋮	(以前省略)	⋮	
10A	아니 다른 게 아니라 좀 물어볼 게 [있어서요,	【切り出し】	主要部
11B	★먼데 먼데 먼데?		
12A	아니[少し間], 저번에 우리가 하던 그 자료 있잖아요. 그거 나도 좀 받을 수 있을까 해서요.	【主要用件】	
13B	자료? 무슨 자료지?		
14A	왜 우리 다 같이 한 자료. 그거요. [笑いながら] 난 조금 밖에 안했지 만. 이번에 논문 쓰는데 참고자료로 쓰면 좋을 것 같아서요.	【補足】	
15B	아. 그 자료? 그래. 그래. 그거 지금 필요하니?		
16A	네네. 지금 보내 주시면 더 좋고요.		
17B	그래.		
18A	담주에 제가 밥 살게요. [笑いながら]드시고 싶은 거 생각해 놓으세요.	【補償】	後置き部
19B	[하]아니야, 니가 잘 사용하면 나아 좋지. 어차피 다같이 쓰자고 작업한 거니까. A도 했고.		
20A	에이~ 나아 죄끔[조금]밖에 안해서 죄송하죠. 할튼 담주에 전하게 쓸게요. B오빠가 마지막까지 작업하느라 [수고하셨어요.	【補償強調】	
21B	★아니다. 할 일을 했을 뿐인데 뭐. 짐(지금) 들어가서 보내줄게.		
22A	[笑いながら]와~ 완전 고마워요. 땡큐.	【感謝】	
23B	아니야, 일단 지금 보내놓을 테니까 보고. 다른 거 있으면 말하고.		
24A	네네.		
25B	요즘 바람 많이 불더라. 감기 조심하고.	【終了暗示】	終結部
26A	알았어요. 담주에 시간 내주세요. 밥이나 [한 끼 먹게.	【補償強調】	
28B	★어 그래. 같이 밥 한 번 먹자. 내가 [살게.		
28A	★에~이 왜요~ 할튼 시간 내주세요. 자료 잘 쓸게요.		
29B	어 그래. 들어가.		

AはBに資料送付を要求する単独行為を求めている場面であり、主要用件を伝えたあと、行為要求に対する感謝の補償で18Aと20Aのようにご飯をおごると言いながら受け手との談話を管理している。

5. おわりに

本稿では、日本語母語話者同士と韓国語母語話者同士の電話会話を題材に、共同行為要求用件と単独行為要求用件による構造様相、主要用件の「前置き部」「後置き

部」による談話管理について考察を行った。結果は以下の通りである。

(1) 日本語母語話者は、共同行為要求用件を伝える場合、「主要部」と「後置き部」に重点をおくのに対して、韓国語母語話者は、「前置き部」と「主要部」に重きをおくことから、会話の前半から主要部にかけて背景や用件の説明などを通して共同行為を促している。一方、主要用件が単独行為要求である場合、韓国語母語話者は「前置き部」から「主要部」、「後置き部」まで全般的な流れを等しく管理しているが、日本語母語話者は「前置き部」と「主要部」の会話の前半に重点をおくことから、共同行為要求用件とは逆の結果が現れ両国母語話者の大きな差がみられた。

(2) 構成要素からみると、主要用件が共同行為要求であれ単独行為要求であれ、両国の母語話者とも電話のかけ手は用件が上手く伝わるように行為の実行を促すため、前置き部において状況確認や背景説明など、受け手がスムーズに話し場に引き込んでくるように談話を管理している。が、共同行為を求めるとき、日本語母語話者は相手の安否や近況など、今までの生活について尋ねながら話の場を和らげる「前置き部」を置いている反面、韓国語母語話者の場合、今何をしているか目下のことを聞き、これから主要用件を切り出してもいいのか相手の気分を察する談話管理を行っていることがわかる。一方、韓国語母語話者は依頼やお願いなどといった単独行為を要求する場合、相手のみ動かす行為を要求するため、予め行為に対する補償を表し、より有効な結果はむろん相手の気持ちを慰める談話管理を行っていると考えられる。

今回の分析によって、電話を通して行為要求用件を伝える際、円滑で効果的に談話を進めるためには、日本語の場合や韓国語の場合、各々談話管理の流れの一端が示された。

今後、分析結果をより客観的・一般化するためには、データの量的な充実を伴い、構成要素のカテゴリ化を図るとともに、性別や世代を増やした分析をも行う必要がある。

【参考文献】

- 岡本能里子(1990)「電話による会話終結の研究」『日本語教育』72, pp.145-159.
 岡本能里子・吉野 文(1997)「電話会話における談話管理：日本語母語話者と日本語非母語話者の相互行為の比較分析」『世界の日本語教育』7, pp.45-60.
 小野寺典子(1992)「エスノメソロジーにおける電話会話の研究と日本語データへの応用」『日本語学』11(9), pp.26-39.

- 柏崎秀子(1993)「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に—」『日本語教育』79, pp.53-63.
- 熊取谷哲夫(1992)「電話会話の開始と終結における「はい」と「もしもし」と「じゃ」の談話分析」『日本語学』11(9), pp.14-25.
- 今石幸子(1992)「電話の会話のストラテジー」『日本語学』11(9), pp.65-72.
- 蒲谷 宏・川口義一・坂本 恵(1994)「依頼表現方略の分析と記述:待遇表現教育への応用に向けて」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』5, pp.52-69.
- 高梨信乃(2011)「行為要求について:日本語教育における問題」『神戸大学留学生センター紀要』17, pp.1-17.
- 中田智子(1990)「発話の特徴記述について—単位としてのmoveと分析の観点—」『日本語学』9-11, 明治書院, pp.112-118.
- 仁田義雄(1991)「意思の表現と聞き手存在」『国語学』Vol.165, pp.108-120.
- 橋内 武(1985)「「もしもし」から用件に入るまで」『言語生活』, p.407:32-34.
- 姫野伴子(1997)「行為指示型発話行為の機能と形式」『埼玉大学紀要』33(1), pp.169-178.
- ポリー・ザトラウスキー(1992)「セールスの電話の会話分析の試み」『日本語学』11(10), pp.51-64.
- _____ (1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』, くろしお出版.
- 具恩美(2006)「日韓の電話構造の研究—日本語母語話者と韓国人日本語学習者の電話会話の分析を中心に—」『日語教育』第38輯, pp.67-91.
- 申媛善(2010)「韓日依頼会話の構造分析—友人間の電話会話を題材に—」『日語日文学研究』第75輯, pp.93-110
- 林美善(2003)「電話会話の開始部における日韓対照研究:20代の友人同士の電話会話から」『言語文化と日本語教育』Vol.26, pp.41-53.
- 元裕璟(2012)「日韓談話における主要用件の前後部に関する一考察—友達間の電話会話を題材に—」『日本語教育』第62輯, pp.113-128
- 曹英南(2011)「韓日異文化電話会話における割り込み発話の使用様相」『日本語文学』第50輯, pp.1-18.
- Hopper, R. 1992. 『Telephone conversation』, Bloomington: Indiana University Press.
- 한미경・강창임(2011)「韓日兩國의 인터넷상의 「質問」의 談話分析-開始部와 終了部를 중심으로-」『日語日文学研究』第77輯, pp.3-23.

〈資料〉

高麗大学校 日本語教育研究室 KUJEコーパス 電話会話篇

要 旨

本稿は、行為を効果的に要求するため、行為要求用件によってその前後部においていかなる談話管理を行うか、電話会話を分析資料として、日本語母語話者同士と韓国語母語話者同士の談話構造を分析し、その構成要素と使用様相の考察を行ったものである。話し合った結果、電話のかけ手も受け手も行為に含まれる場合は共同行為、受け手のみを動かす場合は単独行為と定義づけ、各行為要求用件の「前置き部」と「後置き部」を中心に行われる談話管理について、両国の母語話者の電話会話を比較した。その結果、日本語母語話者は、共同行為要求を伝えるとき、「主要部」と「後置き部」に重点をおくのにに対して、韓国語母語話者は、「前置き部」と「主要部」に重きをおくことから、会話の前半から主要部にかけて背景や用件の説明などを通して共同行為を促している。一方、主要用件が単独行為要求用件である場合、韓国語母語話者は「前置き部」から「主要部」、「後置き部」まで全般的な流れを等しく管理しているが、日本語母語話者は「前置き部」と「主要部」の会話の前半に重点をおくことから、共同行為要求用件とは逆の結果が現れ両国母語話者の大きな差がみられた。また、共同行為を求める際、日本語母語話者は相手の安否や近況など時間的にやや長い生活について尋ねながら話の場を和らげる「前置き部」を置いている反面、韓国語母語話者の場合、今何をしているか目下のことを聞き、これから主要用件を切り出してもいいのか相手の気分を察する談話管理を行っていることがわかる。一方、韓国語母語話者は依頼やお願いなど、相手のみを動かす単独行為を要求する場合、予め行為に対する補償を表し、より有効な結果はむろん相手の気持ちを慰める談話管理を行っていると考えられる。

キーワード：談話管理、電話会話、前置き部、後置き部、共同行為要求用件、
単独行為要求用件

투 고 : 2014. 11. 30
1차 심사 : 2014. 12. 13
2차 심사 : 2015. 1. 3